第 336 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『見えざる手の導き』 ～ 人生の不思議な『つながり』 ～

2025 年 6 月 21 日病理組織診断業務に赴いた。【顕微鏡でマクロからミクロの丁寧な観察 & 俯瞰的に森を見て木の皮まで診る】は『病理医としての原点』である。 筆者は、癌研時代に、1984 年日本で最初に『肝癌症例における B 型肝炎ウイルス DNA の組み込み頻度と肝癌発生におけるその評価』を発表し、医学博士の学位を取得し、『The Yamagiwa-Yoshida Memorial International Cancer Study Grant (UICC)』の助成金で『アインシュタイン医科大学肝臓研究センター』(ニューヨーク)留学(1984～1985)の機会が与えられた。

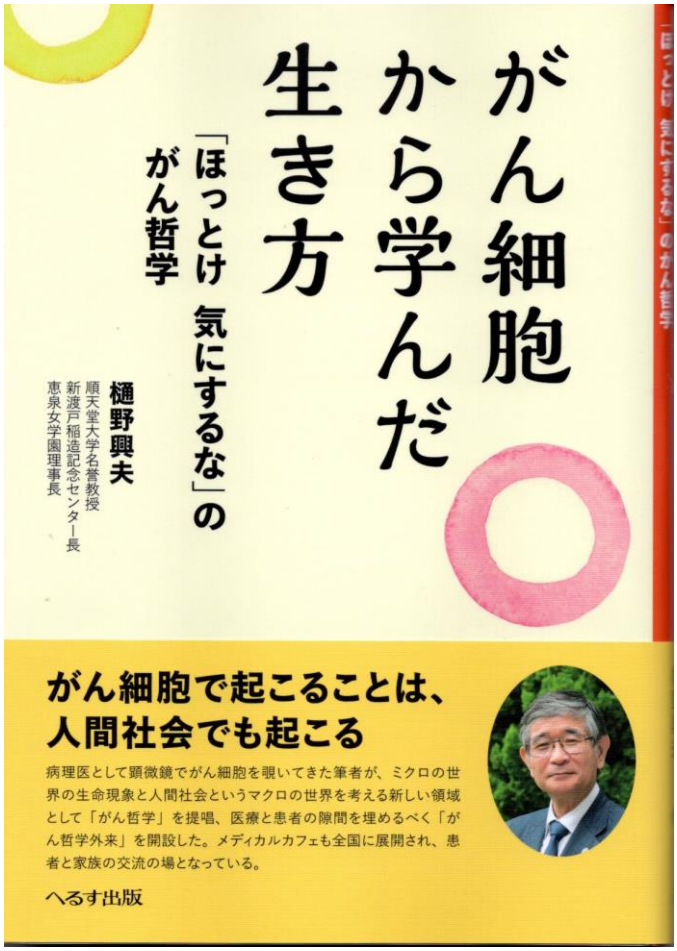
【『癌研究所所長：菅野晴夫(1925-2016)先生』に、アメリカのフィラデルフィアのフォクスチェース癌センタ(Fox Chase Cancer Center)の『遺伝性がんの父 Knudson 博士 (1922-2016) 』の下で『Science を学んでくるように』と再度留学(1989～1991) の機会が与えられ『遺伝性腫瘍』を学んだ。 菅野晴夫に癌研究所実験病理部部長(1991-2004)に呼ばれ帰国し、そして 2003 年順天堂大学の『病理・腫瘍学』の教授に就任した。】ことが鮮明に想い出された。

研究の流れから発見した遺伝子が『アスベスト・中皮腫研究』の展開となり、2005 年 順天堂大学の病院で本邦初の『アスベスト・中皮腫外来』の開設となった。 2008 年の『がん哲学外来』の開設に繋がるとは、自分の思いを超えた『見えざる手の導き』である。『がん哲学＝生物学の法則＋人間学の法則』(添付)＆『がん哲学外来＝品性のある 強靭で 高貴な心の持ち方』(添付)の訓練ともなった。

日本家族性腫瘍研究会(1994 年)、日本家族性腫瘍学会(2005 年)を経て 2019 年より『日本遺伝性腫瘍学会』と繋がった。6 月 19 北九州国際会議場での第 31 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会『地域と、社会と、切り拓く。Beyond the Borders』に日本遺伝性腫瘍学会名誉理事長として参加した。

6 月 21 日は『がん哲学外来市民学会』の代表を務める筆者は、事務局の嶋田弥生氏の担当の Zoom ミーティング第 15 回『つながるカフェ』に参加した。 人生の不思議な『つながり』を痛感する日々である。

がん哲学
がん細胞から人間社会の病理を見る
樋野興夫
順天堂大学医学部病理学教授
癌研究会癌研究所実験病理部部長
がん病理学者・樋野興夫教授の
提唱する話題の「がん哲学」を
平易な語り口で紹介.
がん細胞に学ぶ現代教養書.
to be 出版　定価（本体762円＋税）


がん細胞から学んだ生き方
「ほっとけ 気にするな」のがん哲学
樋野興夫
順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
がん細胞で起こることは、
人間社会でも起こる
病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。
へるす出版

「がん哲学外来」
患者の個性を引き出す。
個性を引き出された患者は
自分の役割・使命を知る。
樋野興夫